

Lyric Colors

リリック カラーズ

公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団 広報誌

vol.7

2022
AUTUMN
TAKE FREE

あなたの毎日に芸術文化のいろどりを。



イベント紹介

藝大フィルハーモニア管弦楽団
NEW YEAR CONCERT 2023

スペシャルインタビュー

落語家 入船亭扇辰

三味線奏者 本條秀慈郎 × 箏奏者 LEO

注目公演

劇団四季ファミリーミュージカル『人間になりたがった猫』

ローマの休日 ～全編上映ライブコンサート～

11/12

長岡市立劇場 大ホール

開場 13:15

開演 14:00

劇団四季ファミリーミュージカル『人間になりたがった猫』

全席指定 ~~SS席 5,500円~~ S席 3,500円 S席高校生以下 2,000円 ※3歳以上有料、2歳以下入場不可

完売間近

日本を代表する演劇のトップ集団「劇団四季」が
世代を超えて“感動”と“元気”を届ける！

今秋、劇団四季が14年ぶりにファミリーミュージカルを長岡で上演します。演目は、“人間の素晴らしさ”、“命や仲間の大切さ”をテーマとした『人間になりたがった猫』！これまでに生み出してきたオリジナルミュージカル約30作品のなかでも、2,000回を超える最多公演回数を誇る長年愛されている作品です。生のステージだからこそ味わえる、迫力あるダンスと歌声、壮大なスケールの舞台にご期待ください。

[あらすじ]

ダンスの森に住む猫のライオネルは、人間の言葉を話す猫。飼主である魔法使いのステファヌス博士に口答えをしたらバツとして人間になる魔法をかけられてしまった。さっそくブライトフォードの町へ出かけてみると、可愛い女の子リアンに会い、胸のときめきを感じる。ところが意地悪なお役人のスワガードがリアンを狙って悪いことをたくらみ、ついには大変なことが…！様々な人々と触れ合うなか、命や仲間の大切さ、相手を思いやる気持ちという、人間になったライオネルが初めて人間の心を感じていく……。



12/4

長岡市立劇場 大ホール

開場 13:15

開演 14:00

ローマの休日 ～全編上映ライブコンサート～

演奏／ローマ・イタリア管弦楽団

全席指定 S席 7,000円 A席 5,000円 ※未就学児入場不可

チケット発売中

燦然と輝き続ける不朽の名作が
ローマ・イタリア管弦楽団の生演奏で蘇る！
《大スクリーン × オーケストラ》で
至極の“ローマの休日”をお贈りします。

当時新人であった銀幕の妖精オードリー・ヘップバーンをアカデミー賞最優秀主演女優賞に導いた名作として知られる本作。音楽はフランスの作曲家で映画音楽の大家・ジョルジュ・オーリックが手掛けています。感性を刺激するオーリックのめくるめく音の世界と、愛らしいオードリーが輝く名作映画を、ローマゆかりのオーケストラの生演奏とともに大スクリーンでお楽しみください！



ローマ・イタリア管弦楽団 Orchestra di Roma Italia

1990年設立。現代音楽への高い順応性と技術から、ポップミュージックからクラシック、ジャズに至るまでの幅広いジャンルにおいて、イタリアを代表するオーケストラのひとつとして活躍中。特にイタリア映画のミュージックシーンにおいて定評があり、様々なサウンドトラックのレコーディングに招かれている。中でもエンニオ・モリコーネとゆかりが深く、モリコーネが作曲した映画作品のレコーディングに数多く参加している。また、ロベルト・ベニーニ監督、ニコラ・ピオヴァーニが音楽を担当したアカデミー受賞作品『ライフ・イズ・ビューティフル』や、マイケル・ラドフォード監督の『イル・ポストモド』のサウンドトラックを収録している。



Lyric Colors vol.7

〈2022年10月25日発行〉

発行(公財)長岡市芸術文化振興財団

〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6

TEL. 0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>

長岡リリックホール
Nagaoka Lyric Hall

Profile すず き まな み
鈴木 愛美

国立音楽大学声楽科卒業、同大学院及び新国立劇場オペラ研修所修了。新国立劇場「サロメ」「魔弾の射手」「リゴレット」に出演後、文化庁海外研修員としてミラノへ留学。ローマ・ミュージックファンデーションの助成にて、音楽の都ウィーンへ渡り、ウィーン国立音楽大学院を最優秀成績で修了。秋川雅史氏、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団などとも共演。新潟大学音楽科准教授。



音楽の都ウィーンで高く評された鈴木 愛美
このたび藝大フィルハーモニア管弦楽団初の新潟公演に、長岡出身の素晴らしいゲストの方々と出演させていただき、大変光栄に感じております！
新しい年の幕開けに相応しい2曲を選曲し、1曲目は、クラシックの本場ウィーンでも、毎年ニューイヤーコンサートで大変親しまれている、喜歌劇《こうもり》から華やかで明るい「侯爵様、あなたのようなお方には」、2曲目は、シェイクスピアが書いた《ロメオとジュリエット》を原作とした、若いジュリエットの人生や恋への憧れを歌った高音域の美しい「私は夢に生きたい！」をお届けします。華やかなオペラの曲を楽しんでいただけますよう、精一杯歌います。
私にとって長岡は、様々な演奏会などの貴重な経験と共に育てていただいた大切な故郷です。2023年の幕開けを、この長岡で皆様と一緒に迎えられたらと思います！是非、ご来場お待ちしております。

Profile こ やま ゆう き
小山 裕幾

2005年第6回神戸国際フルートコンクールにおいて、日本人初の第1位を受賞、2006年度第17回出光音楽賞受賞など、国内外で数多くの受賞歴を誇る。2010年慶應義塾大学理工学部を卒業後、渡欧し、スイスのパーゼル音楽院にてフェリックス・レンゲリ氏に師事。現在、フィンランド放送交響楽団首席奏者として活躍中。また、シベリウス・アカデミーの講師として後進の指導にもあたっている。



世界的フルート奏者 小山 裕幾
久しぶりの長岡でのオーケストラとの競演、とても楽しみにしています。多くの方に聴きにきていただけたら幸いです。
今回演奏する曲はモーツァルトのフルート協奏曲第2番。私が中学生から勉強している曲で、シンプルですが非常にやり甲斐があります。もともとはオーボエの曲ですが、フルート用にモーツァルト自身によって編曲されました。モーツァルトというと非常に優雅なイメージがありますが、演奏者にとつては非常に難しいです。それは音質、発音（アーティキュレーション）、フレーズ（メロディーの歌いまわし）が完璧でなければならぬからです。フルートを始めて30年の私もようやく理想的なモーツァルトに近づいて来たと思います。どうかその辺りを演奏を通じて感じていただけたらと思います。長岡は私を育ててくれた大事な故郷です。音楽などの文化的な活動で、長岡の子供たちや市民の皆様の心が豊かになる手助けが出来れば良いなと思っています。それでは会場でお会いしましょう！

Profile お お た き た く や
大瀧 拓哉

愛知県立芸術大学ピアノ科を首席で卒業、同大学院を首席で修了。パリ国立高等音楽院第三課程現代音楽科で学び、近現代に作曲された作品で競う、オルレアン国際ピアノコンクールで優勝。その他数々の受賞歴を持ち、ヨーロッパ各地で多くのリサイタルや音楽祭に出演。現在は東京を拠点に数多くの演奏活動を行う傍ら、後進の指導にも力を入れている。



近現代クラシック音楽界で躍進中 大瀧 拓哉
長岡では初めてとなるプロのオーケストラとの共演なので、非常に楽しみにしております。
私が演奏するのはリスト作曲のピアノ協奏曲第1番です。ニューイヤーコンサートというところで華やかな曲をお届けしたいと思い、この曲を選びました。名ピアニストでもあったリストは、ピアノの響きの華やかさ、美しさ、ダイナミックさなどを最大限に引き出しました。またオーケストラとの掛け合いがたくさんあるところも聴きどころだと思っています。藝大フィルの皆様と共に、リストのピアノ協奏曲第1番という素晴らしい作品の魅力を長岡の皆様にお伝えできるよう、努めたいと思います。
いつも長岡で演奏するときは、地元ならではの温かさを客席の皆様から感じる事ができるので、今回も楽しみです。たくさんの方のご来場を心よりお待ちしております。

— 音楽で彩る新年の歓び —

県内初公演 藝大フィルと長岡が誇るソリストたちの競演

長岡市立劇場開館50周年記念事業のイベントとして、新潟県内でも初公演となる藝大フィルハーモニア管弦楽団によるニューイヤーコンサートを開催します。そして、ソリストには、長岡出身の国内外で活躍する3名のアーティストを迎えます。ソプラノ歌手の鈴木愛美さん、フルート奏者 小山裕幾さん、ピアニスト 大瀧拓哉さんが、メモリアルイヤーの幕開けにふさわしい華やかなプログラムでステージを盛り上げます。
出演されるアーティストの皆様からのコンサートに向けたメッセージをご紹介します。



藝大フィルハーモニア管弦楽団よりごあいさつ
藝大フィルハーモニア管弦楽団は、奏者一人ひとりが国内でも最高水準の演奏はもちろんのこと、楽員の全てが東京藝術大学の教員という立場でもあり、演奏と教育の二本柱で活動をしている国内唯一のオーケストラです。また、年13回の現役学生との協奏曲等の共演（モーニングコンサート）を行っていることも大きな特色のひとつです。
ここ数年、様々なイベントが中止や延期になっているなかで、我々がこの状況にどう向き合って、またどのような対策を講じることができるかを学び、ようやく、ここに皆様と新年の華やかな雰囲気を作る事ができるようになりました。今回、新年を祝う最高のプログラムとして、ウィーンフィルニューイヤーコンサートでもお馴染みのJ・シュトラウスの作品をご用意いたしました。指揮には、これまでに藝大フィルと数々の共演歴を誇り、ピアニスト、室内楽奏者、指導者など、幅広い活動で音楽へのアプローチを続け活躍する、東京藝術大学理事・副学長を務める迫昭嘉を迎えます。
藝大フィルにとつて初めての新潟県での公演に加え、地元のソリストの皆様と共演できることを、楽員・スタッフ共に大変楽しみにしております。そして、新たな年を皆様と一緒に祝いできたいと思います。藝大フィルハーモニア管弦楽団がお贈りする最高水準のオーケストラサウンドを是非ご堪能ください。

Profile さ き あきよし
迫 昭嘉 / 指揮

東京藝術大学大学院、ミュンヘン音大マイスタークラス修了。ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、民音コンクール室内楽部門優勝、ハエン国際ピアノコンクール優勝。気品ある音色と透明度の高いリリシズムを持つピアニストとして、国内外でソロ、オーケストラとの共演、また室内楽奏者としても高い評価と信頼を得てきた。指揮者としては1999年に九州交響楽団にデビュー。その後も札幌、群馬、新日フィル、東京シティフィル、都響、神奈川フィル、名古屋フィル、京都市響、日本センチュリー響、関西フィル、藝大フィル等を指揮して高く評価されるなど、この分野での動向にも注目が集まっている。現在、東京藝術大学理事・副学長、音楽学部教授。



藝大フィルハーモニア管弦楽団について

一流演奏家を輩出し続ける日本の芸術大学の最高峰、東京藝術大学に所属するプロフェッショナルオーケストラ。創立は約100年以上前。前身である東京音楽学校管弦楽団からはじまり、ベートーヴェンの「交響曲第5番『運命』」や「交響曲第9番（合唱付き）」を本邦初演。現在、オーケストラ演奏を専門とする演奏講師によって組織され、2017年6月には、「日本・チリ修好120周年」の記念交流事業として、約半世紀ぶりの日本のオーケストラ公演を南米で実現。多くの聴衆を魅了し、高く評価された。

新潟日報創業145年(創刊80周年)記念事業・長岡市立劇場開館50周年記念イベント

藝大フィルハーモニア管弦楽団 NEW YEAR CONCERT 2023

〔曲目〕
W.A.モーツァルト：フルート協奏曲 第2番 二長調 K.314（フルート：小山裕幾）
F.リスト：ピアノ協奏曲 第1番（ピアノ：大瀧拓哉）
J.シュトラウスⅡ：喜歌劇《こうもり》より「侯爵様、あなたのようなお方には」（ソプラノ：鈴木愛美）

1/8日 開場 13:15 開演 14:00
長岡市立劇場 大ホール
全席指定 S席 5,000円 A席 3,000円
※チケット発売中 ※未就学児入場不可

J.シュトラウスⅡ：喜歌劇《こうもり》序曲
J.シュトラウスⅡ：ワルツ「春の声」op.410
J.シュトラウスⅡ：ワルツ「美しく青きドナウ」 ほか

落語家

入船亭扇辰

スペシャルインタビュー



毎年恒例となっている、長岡市出身の落語家 入船亭扇辰師匠の独演会。今年度は、来年1月にアオーレで9回目となる新春独演会を開催します。
また、令和5年は扇辰師匠にとって「扇辰」の名を受け30年目を迎えます。記念すべき節目を前にし、落語の魅力などお話を伺いました。

落語との出会いは

小学3年生の頃には落語を好きになつていました。「寿限無」など、言葉遊び的なものを面白いと感じていたのでしよう。ラジオやテレビで放送されている落語をラジカセで録音し、繰り返し聞いていました。よく覚えていないのですが、小学生の時に教壇に座つて落語家の真似事をしていたらしいです。目立ちたがり屋だったんでしょうね(笑)。

本格的にやろうと思つたのは大学生のとき。5年半も通つていた大学を、もう卒業できないと見切りをつけ、相変わず好き

だった落語の世界へ進もうと決意しました。知人から九代目入船亭扇辰師匠の自宅住所を教えてもらい、とりあえず会いに行きました。「今は弟子が多くてこれ以上の受け入れは難しい。2年後に来てくれ。」と言われました。約束どおり、その2年後に師匠の自宅に再訪し、めでたく弟子入りし今に至ります。

後日談ですが、「お前、なんであの時、翌日に来なかつた?来ていたら、弟子入りできたのに……」と兄弟子に言われました。……つまり師匠は根性試しで一回は断つてみたようです。



大学3年生の高座

この話を聞いたのは5年ほど前。当時23歳の純真な私は素直に言うとおりにしたわけです(笑)。

師匠にとって落語とは

落語は大衆芸能です。寄席は飲食しながら、会場によってはお酒も飲みながら観ることが出来る庶民のための娯楽です。

立川談志師匠が「落語とは人間の業の肯定である」とおっしゃっていました。つまり、落語とは、人間は本来ダメな生き物で、ダメでいいと肯定しているもの「つていうこと。落語の噺には立派な人があまり出てきません。そこは、講談や浪曲とは大きく違います。人の見本にもならない、そこら辺にこそ普通の庶民が主役です。そして、それを「良し」としているところが実に面白い!よくこんな何のためにならないものが何百年も残っているな、と感心します(笑)。

そういうところが落語の凄さだと思っています。

最近では、コロナの影響で、ネット配信の仕事も増えました。しかし、やはり生の現場が一番やり応えがあります。噺家はお客様の反応が励みであり、腕を磨く場でもあります。これは、落語界に限らないことでしょけど……。とにかく、早く元どりの生活に戻りたいですね。弟子と過ごす時間すらも感染対策のために減らさなければならぬ状況が今も続いています。弟子との時間も、高座も、きちんと相手と向かい合つて密に関わりたいたいです。

ふるさと長岡のみなさまへ

平成元年の入門ですから、今年で三十三回忌……じゃなくて、33年になりました。前座の修行が明けて程なくの頃から、長岡の皆さまにはお世話になってます。25年くらい前、長岡の某料亭で独演会を開催していただきました。会場前の立て看板に「入船亭扇辰独演会」の文字を見た時には感激しました。ただ「長岡が生んだ天才落語家!」と肩書きしてあるのは閉口しました……。

アオーレでの独演会は、毎回チケットが即完売で有難いことです。次回はお正月の公演です。とはいえ、いつもどおり粛々と演ります。それが長続きの秘訣だと思いますねえ。大勢さまのご来場をお待ちしております。



扇辰師匠にまなぶ

落語のアレコレ

落語の楽しみ方

ただ面白かったら笑つていただければそれで結構です。多少古い言葉があるかもしれませんが、何となくストーリーの流れで想像して理解できるものがほとんどです。ドレスコードも特別なルールもありません。

昔も今も、気取らず楽しめる、庶民が気楽に足を運べるのが落語のいいところ!

落語界独特の言葉

「直箸」を「土足」と言うのは噺家らしくて好きな言葉です。一般の方はお使いにならないほうが良いと思いますが。

師匠の好きなネタ

自分の中で流行り廃りがありますね。近年は「道灌」「茄子娘」「団子坂奇談」「紫壇楼古木」など、他愛ないネタが好みます。えっ、それで終わり?という肩すかしのモノは、演じていて楽しいです。

Profile 入船亭扇辰



3人の落語家と結成するバンドの3人組。扇辰師匠はギター・ボーカルを担当。

長岡のお気に入りスポット

夜の殿町。信濃川の土手沿いもなかなかいいですね。

好きな食べ物

年齢を重ねるにつれ、故郷の食べ物が恋しくなりました。菊のおひたし、酢ズイキ、醤油おこわ、のっぺ、栃尾のあぶらげ、江口だんご、レストランナカタも大好き。叶わぬ夢ですが、小松バーラーの洋風かつ丼をもう一度食べたいです。

趣味

ギター、俳句……どちらも独学の道楽です。

将来の夢

だいそれた夢はありません。健康で、できるだけ長く現役の噺家でいたいです。

長岡高等学校卒業。國學院大學入学。國學院大學落語研究会出身。1989年に九代目入船亭扇辰に入門し、扇辰の名を与えられる。1993年5月に二ツ目に昇進して扇辰と改名。2002年に真打に昇進。2007年に国立演芸場花形演芸大賞銀賞、2008年に国立演芸場花形演芸大賞金賞をそれぞれ受賞。弟子は3人。十代目入船亭扇辰(真打)、入舟辰乃助(二ツ目)、入船亭辰ぢろ(前座)。

第九回 入船亭扇辰 新春独演会

噺家人生 三十三年。
扇辰の独演会で初笑い!

1/21

土

【昼の部】開場 12:15 開演 13:00

【夜の部】開場 15:45 開演 16:30

※昼・夜同一演目

アオーレ長岡・市民交流ホールA

全席指定 2,000円 ※チケット発売中 ※未就学児入場不可



扇辰師匠の御一門

本條秀慈郎

三味線奏者

箏奏者

LEO

若き邦楽界の実力者である、三味線奏者本條秀慈郎さんと箏奏者 LEOさん。伝統を受け継ぎながら新たな和楽器の可能性を見出すために挑戦し続ける活動は、国内外で注目を浴びています。リサイタルに向け、お二人からそれぞれの楽器の魅力や見どころなどについてお聞きしました。

interview

日本人独特の美学が、
箏の特性であり魅力

箏は大量も出ず、余韻が短い楽器です。その短い余韻を楽しむところが日本的な文化だと感じています。例えば、桜を楽しめる時間はとても短い。その儚さを慈しみ美しさを感じる、という日本人独特の美学が箏の特性にもあり、魅力だと考えています。僕はそこに魅了されています。

また、箏との出会いは小学4年生の音楽の授業でした。その頃の僕はシャイで自分の感情を表すのが苦手でした。しかし、音楽を通して自分の意志が伝えられ、言語以外の手段で人と繋がることのできる、ということを実感し、箏として音楽にのめり込んでいきました。

音楽の幅を開拓したい

コロナ禍で活動が制限され、二人でいる時間が多かった頃、人との関わりがないと音楽はできない、音楽は人と繋がることなんだと強く再認識させられました。

少しずつ活動を再開しはじめ、今年はブルーノートやサマソニックなどに初出演させていただき、ジャズやポップス、ダンスミュージックとの共演に挑戦しました。それぞれのお客様の層や反応が全く違い、とても良い刺激を受けました。サマソニの朝3時のステージでは、自由に楽しむ観衆とある種の一体感が生まれ、自分にとっての音楽の原点でもある、人との繋がりを体験することができました。また、このような他ジャンルとのコラボレーションを通し、西洋楽器に比べ音量や音域などで劣るにも関わらず、箏特有の音色はとても際立つことがわかり、箏の底力を感じています。今後より一層、箏の魅力を最大限に引き出せる演奏を探索し、自身の音楽の幅を開拓したいです。

秀慈郎さんに感じる強いシンパシー

秀慈郎さんは年齢的にもキャリア的にも大先輩で、憧れでもあります。いつも多くのことを学ばせていただいています。

三本の糸だけで紡がれる表現の魅力

楽器をはじめたのは高校生の時です。それまではピアノやギターを弾いていましたが、母が薦めてくれたのがきっかけでした。その後大学に進学し、師匠の本條秀太郎先生に出会いました。たった一音でオーケストラのようなスケール感と、空間全てを演出するような演奏に感動し、現在に至ります。

三味線の魅力は、まさにその三本の糸だけで紡がれる宇宙、異空間へと誘う表現ができることだと感じております。また、三味線は唄を伴い発展してきましたので、日本語の持つリズムやニュアンスを豊かに表現できるところも三味線音楽の魅力です。

先人の想いに耳を傾け、未来を紡ぐ

古典音楽とされている音楽にも様々な背景があり、当時は先端をいく音楽であったと思います。そうした先人の想いに耳を傾け、現代音楽、古典音楽とカテゴライズすることに拘らず成長していけたらと願っています。また、言語や習慣と違って、自然に湧き出てくるような音楽に想いをよせ、いつか師匠のように過去から未来、都から都、島から島、海から海へなど自由自在に行き来できるような演奏家になりたいと思っています。ハッとするような三味線音楽の未来を紡いでいけたらと願っています。

LEOさんから感じる、

楽器を超えたエネルギー

LEOさんとは何度か演奏を一緒にさせていただいております。空間を割くような鋭さは楽器の魅力を最大限使われていて、楽器を超えていくようなエネルギーを感じております。楽屋ではいつも意気投合し、自分達の音楽について語り尽くしています。私は勝手ながら音楽の趣味も共通していて、

邦楽は師弟文化が強く、その関係の在り方に《守破離》という言葉があります。師匠から受け継いだものを守り、自分の壁を破って独自の表現を見出す。そして師匠の下を離れ自分の道を進む。彼は師匠から学んだことを解体し、他の三味線の演奏技法を採り入れ、固定概念に縛られず、独自の音を創り出そうとしているー、まさに《守破離》を体現している三味線界のバイオニアです。

僕にとって、この《守破離》が理念でもあるので、秀慈郎さんの姿に強いシンパシーを感じています。互いの活動内容に違う点もありますが、最終的な到達点は共有できていると思っています。

聴きどころは独特の「余韻」「間合い」

長岡には初めて伺います。僕の趣味のひとつが料理で、作るのも食べるのも大好きです。長岡といえばお米！お味噌やお酒をたくさん買って帰りたいです(笑)。

また、初めて僕たちの音楽を聴く方が多いのではないかと思います。僕たちにしかできないプログラムや演奏表現で、箏と三味線の魅力が伝わる内容にしたいと意気込んでいます。世代を超えて日本人の感性に沁みる、和楽器独特の「余韻」「間合い」が聴きどころです。お会いできることを楽しみにしています。

共に演奏を楽しむ仲間であり、本音を言い合える友人であると思っています。

また、私がLEOさんの年齢の頃には実現が難しかったことを、何歩も先を行き、その困難に向かわれていることにも大きな尊敬を抱きます。これからもお互いを刺激し合いたいです。LEOさんが次にどんな音楽を創ってくるのか、いつも楽しみにしています。

作品が誘う「空の動き」

箏演奏家 沢井忠夫さんが南国石垣島で作曲された箏・三味線の作品「銀河」は宇宙を表すような優しく星屑を描いた作品。世界で活躍されている作曲家 藤倉大さんの作品は空間を切りさくような鋭い音楽です。そして、坂本龍一さんの箏・三味線のソロはコラールであり、祈り、天に捧げる音楽であると思います。今回の聴きどころは、こうしたそれぞれの作品が誘う「空の動き」とそこに見ゆる哲学的なメッセージです。

今回は長岡という文化の深い地の、空に混在する様々な自然のうつろいや人への想いを箏・三味線で表現できたらと思います。また、日本海という力強く素晴らしい地で、これまで文化と共に素敵な歌、音楽が運ばれてきたことに想いを寄せています。古典・現代音楽と力強くも繊細な箏・三味線の現在進行形を味わっていただけますよう心を入れて演奏致します。是非会場に足を運んでいただき、その生の音をお聞きください。

本條秀慈郎 × LEO

デュオ・リサイタル —進化する伝統—

3/4 土

リックホール
コンサートホール
開場 13:15 開演 14:00

全席指定 3,000円

※未就学児入場不可

〈リックm.c.先行販売〉12/8(木)

〈一般〉12/9(金)

〔出演〕三味線 本條秀慈郎 / 箏 LEO

〔曲目〕藤倉大:Cutting Sky

坂本龍一:Andata

沢井忠夫:銀河 ほか

Profile 本條秀慈郎

本條秀太郎に師事。Accフェロー受給でNY留学、ロンドンウィグモアホールリサイタル。文化庁文化交流使で海外30公演。芸術選奨文部科学大臣新人賞。ケージらも務めたU.C Davis アーティスト・イン・レジデンス2022選出。

Profile LEO

カーティス・バタースン、沢井一恵の両氏に師事。16歳でくまもと全国邦楽コンクールにて、史上最年少で優勝を果たす。セバスティアン・ヴァイグレ、井上道義、東京フィルハーモニー交響楽団などと共演。「情熱大陸」「題名のない音楽会」「徹子の部屋」などに出演。出光音楽賞、神奈川文化賞未来賞受賞。